

## 地域イノベーション政策と中小企業

地域ダイナミズムをサポートするために技術移転を振興し、  
アントレプレナーシップとベンチャー起業を強化する

2010年2月3日・4日、日仏会館（東京）、5日東北大学（仙台）

### 参加者リストとプロフィール

**阿部 敬悦**（あべ・けいえつ）

農学博士・教授

東北大学 未来科学技術共同研究センター

大学院農学研究科

日本は微生物、特に糸状菌（カビ）を用いた発酵産業（食品・化成品・医薬品生産）において世界をリードしており、生産技術・生産インフラは世界有数です。私たちは微生物ゲノム科学を利用して、環境対策として登場してきた生分解性プラスチックの大規模分解リサイクルなどの新規バイオプロセス技術を開発します。また農業・医療分野で動植物感染菌対策に必要な新規抗菌剤の開発においては、効率的創薬手法の確立が求められており、微生物ゲノム科学を活用して、連続的に新剤を創出する新技術体系の確立を目指します。

**天野 斉**（あまの・てつお）

特許庁総務部企画調査課 知的財産活用企画調整官

1991年3月東北大学大学院工学研究科修士修了、同年4月特許庁入庁、特許審査第三部審査官、総務部国際課、ニューヨーク大学客員研究員、独立行政法人日本貿易振興機構バンコク・センター知的財産権部長、審判部審判官等を経て、2008年7月より現職。

**Marc HUMBERT**（アンペール・マルク）

UMIFRE19 所長、日仏会館、フランス外務省 - CNRS 国立在外共同研究所。

— レンヌ第1大学教授（政治経済学）

— レンヌ第2大学、人類学・社会学系研究所、博士課程院生教育チーム（EA 2241）所属レンヌ日本文化研究センター研究員

— レンヌ第2大学博士課程（人文学・人類学 ED464）指導教官

— アジア・ネットワーク（Réseau Asie [CNRS-MSH]）、会員、ヨーロッパ日本研究学会（EAJS）会員、フランス日本研究学会（SFEJ）会員、日仏経済学会（Association Franco-Japonaise d'Économie）会員

— PEKEA、経済活動における政治的・倫理的知識のシンクタンク副委員長、ならびに学術委員会委員長（PEKEA は、国連経済社会理事会（ECOSOC）の諮問機関の NGO）

**伊地知 寛博** (いじち・ともひろ)

成城大学,社会イノベーション学部教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了, 博士(学術). 文部科学省科学技術政策研究所主任研究官, 一橋大学イノベーション研究センター助教授等を経て現職に至る. 研究の関心は, 国全体の科学技術・イノベーション・システムの特性と政策, 研究開発・イノベーション活動に関する定量的観測, 研究開発・イノベーションにおけるインタラクションのガバナンスとマネジメントなどである. OECD 等国内外の各種活動にも携わっている.

**Bruno VAN POTELSBERGH** (ヴァンポテルスベルグ・ブリュノ)

ブリュッセル自由大学, BRUEGEL

ブリュッセル自由大学(ULB)およびソルヴェイ・ビジネススクール(SBS-EM, ECARES)教授. 在ブリュッセルのシンクタンク Bruegel シニア・フェロー. イノベーションのソルヴェイ講座教授として, イノベーション経済および経営と知的財産に関する講義を行う. 専門は科学技術政策、特許政策、産学連携、イノベーション. 近著としては Bruegel からブループリントとして *Lost Property : the European patent system and why it doesn't work* が2009年6月に出版されている. 2005年11月から2007年末まで欧州特許庁(EPO)のチーフ・エコノミストを務め、現在はブリュッセル自由大学学長の技術移転政策担当顧問である. 現在までに、特許制度の有効性に関する学術論文を多数発表している.

**内田 真人** (うちだ・まひと)

成城大学, 社会イノベーション学部教授

1954年生まれ. 1978年東京大学教養学科卒業後日本銀行入行. 1994年パリ主席駐在員、2000年那覇(沖縄)支店長、2003年金融市場局参事役(BISグローバル金融システム委員会委員兼務)、2005年調査統計局審議役、2007年成城大学社会イノベーション学部教授

**大滝 精一** (おおたき・せいいち)

東北大学大学院経済学研究科教授

東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター・センター長

1975年東北大学経済学部経営学科卒業. 1980年東北大学大学院経済学研究科博士課程修了. 現在、東北大学大学院経済学研究科・教授. 東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター・センター長. 専攻は経営戦略論で、特に戦略提携やセクター間の協働による新事業開発とベンチャー創業過程に関心をもっている. 東北地方の農商工連携プロデューサー育成塾の塾長を務めているほか、組織学会評議員、日本ベンチャー学会理事、社団法人東北ニュービジネス協議会理事などで活躍している.

**大西 仁** (おおにし・ひとし)

東北大学法学研究科教授(国際政治)

東京大学法学部卒業、カリフォルニア大学バークレー校政治学部博士課程単位修得.

日本平和学会会長、パグウォッシュ会議評議員を務めた.

東北大学副総長・理事も務めた.

### 小口 しのぶ (おぐち・しのぶ)

株式会社アップストリーム・インフィニティ 代表取締役副社長&COO独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 研究開発戦略センター (CRDS) 臨床医学ユニット フェロー1990年北里大学衛生学部化学科を卒業後、国立がんセンター研究所・生化学部、東京大学薬学部・生物物理学教室、(独)産業技術総合研究所・分子細胞工学研究室にて、がんおよびアルツハイマー病の生化学・分子生物学の研究に約10年間携わった。2001年より「平沼経済産業大臣プラン・大学発ベンチャー1000社構想」に基づく(独)産業技術総合研究所発第1号バイオベンチャーである(株)インフォジェンズを始め、東京大学シーズを用いた(株)RNAi、(株)ProbeXの代表取締役を務め、国内外の企業へのライセンス交渉、事業展開を行ってきた。2009年6月より(株)アップストリーム・インフィニティ代表取締役副社長&COOとして、京都大学大学院医学研究科の研究成果からハイブリッドペプチド@抗がん剤の医薬品開発を行っている。2006年4月よりJST研究開発戦略センター(CRDS)臨床医学ユニット(井村裕夫首席フェローグループ)では、現在もフェローとして、「臨床研究」における戦略立案に携わる。

### 奥和田久美 (おくわだ・くみ)

科学技術動向研究センター長、科学技術政策研究所 (NISTEP)  
民間企業の研究者として材料科学などに関して研究を行なったのち、2002年に科学技術政策研究所 (NISTEP) に採用される。NISTEPではナノテクノロジー関連を中心に多くのレビュー論文を発表してきた。現在は、科学技術動向研究センター長として月刊「科学技術動向」誌の発行に携わり、また、進行中の第9回科学技術予測調査の責任者でもある。工学博士。

### 金間 大介 (かなま・だいすけ)

科学技術政策研究所 (NISTEP) 科学技術動向研究センター研究員  
産学連携と知的財産について興味を持ち研究を行っている。また、ナノテクノロジー・材料分野の研究開発動向の調査研究も行っている。

### Veronique CABIAUX (カビオー・ヴェロニック)

ブリュッセル自由大学、ワロン地域科学技術振興局局長  
科学博士。企業における技術イノベーションの推進および産業界と密接な関係を持つ大学や研究機関と経済組織とのあいだの知と技術移転の促進を任務とするワロン地域科学技術振興局局長。また、ワロン地域首相府で研究・イノベーションに関する顧問を務めるとともにベルギー王立学術アカデミー「技術と社会」部門のメンバーでもある。過去には国立学術研究基金の研究員、ブリュッセル自由大学講師、同大学研究・開発協力担当の副大学区長も務めた。

**Henri CAPRON** (カプロン・アンリ)

ブリュッセル自由大学

ソルヴェイ・ビジネススクール(SBS-EM)教授、ブリュッセル自由大学応用経済学部門(DULBEA)ディレクター。商学および経営学、計量経済学を修め、経済学博士号を取得。地域経済とイノベーションの経済学を専門とする。特に、ヨーロッパの地域政策、地域発展戦略、イノベーション・システムの分析および科学技術政策の有効性などに関する論文や地域政府から国際機関まで多岐にわたる組織のための報告書を手がけている。近著に *Entrepreneuriat et création d'entreprise*、*Les établissements scientifiques fédéraux belges* などがある。

**Nadia KAMAL** (カマル・ナディア)

CREALYS 社長

タンパク質工学とゲノムのブロック共重合に関する研究で博士課程準備資格(DEA)を取得した後、モンペリエ大学で免疫学の博士号を取得。博士論文をもとに共同開発した特許が Biorad 社(旧 Sanofi Diagnostics Pasteur 社)により実用化される。博士課程と平行して、企業経営学院(IAE)で高等専門職課程(DESS)も修了。バイオテクノロジーにおけるイノベーションに大きな関心を持ち、経済関係の研究所でバイオテクノロジーのイノベーション・システムに関する欧州計画の仕事に携わるようになって 1 年後、リヨンを本拠地とするローヌ・アルプ地方西部のインキュベーターである CREALYS において生命科学担当としての仕事を始める。2002 年 9 月に CREALYS の副ディレクター、2006 年 1 月にはディレクターに就任。CREALYS は 10 年間で 120 社の起業を支援している。

HP : [www.crealys.com](http://www.crealys.com) メール : [nk@crealys.com](mailto:nk@crealys.com)

**Claire GHYSELEN** (ギセレン・クレール)

ベルギー王国ワロン地域政府貿易・外国投資振興局日本代表

クレールギスレンはジュネーブ大学にて国際関係学部と文学部日本学科を卒業。

1993-1999 年ベルギー貿易振興庁、東京事務所

1999-2005 ワロン地域政府、貿易・外国投資興庁、アジア市場担当

2005-現在 ワロン地域政府、貿易・外国投資興庁、日本で投資部日本代表

**Beatrice JALUZOT** (ジャリュゾ・ベアトリス)

リヨン大准教授、政治学院、東アジア研究所

リヨン政治学院准教授(私法)、リヨン東アジア研究所研究員。パリ第 2 大学で私法の博士課程準備資格(DEA)を取得、2000 年 1 月に提出した比較法学の博士論文”*Bonne foi en droit des contrats, études comparatives de droit français, allemand et japonais* (契約法における善意：フランス法、ドイツ法、日本法の比較研究)”は Dalloz 社から出版されている。リヨン政治学院のアジア部門学位の責任者。日独の比較法を専門とし、最近では日本の契約法と特許法に関する研究を進め、特に会社員による発明や比較法における特許取得が可能な発明の概念について関心を抱いている。

**庄子 哲雄**（しょうじ・てつお）

東北大学教授、未来科学技術共同研究センター（N I C H e）副センター長

1975年3月東北大学大学院工学研究科機械工学専攻博士課程修了。同年4月東北大学助手に採用され、1984年9月東北大学助教授、1986年3月東北大学教授。破壊力学応用研究施設長（現エネルギー安全科学国際研究センター）、東北大学評議員、工学研究科副研究科長（研究担当）、東北大学理事（研究及び国際交流担当）を歴任。この間、英国 Newcastle Upon Tyne 大学金属・材料工学科博士研究員、米国マサチューセッツ工科大学原子力工学科客員教授。2002年より経済産業省総合エネルギー調査会の委員を務め、原子力安全・保安院の複数の委員会などの委員に就任。国際的には、米国原子力規制委員会の「先見的材料劣化評価」プログラムの専門家として参加、欧州委員会（EC）のプロジェクト「力学と腐食に及ぼす照射効果」の科学諮問委員会委員、経済協力開発機構原子力機関の応力腐食割れおよびケーブル時効プロジェクトの SCC-WG 委員など。受賞歴は1998年米国腐食学会 W. R. Whitney 賞、2007年中国科学院材料研究所 Lee Hsun Award、2009年経済産業省原子力安全功労者表彰をはじめ、国内より14件、海外より6件。日本工学アカデミー会員及び学術会議連携会員。CNRS 東北ーリヨン理工学ジョイントラボラトリー共同所長。

**菅原 岳人**（すがわら・たけと）

東京大学産学連携本部事業化推進部助教

研究テーマ：ベンチャー企業論、ビジネスインキュベーション、アントレプレナーシップ

**隅藏康一**（すみくら・こういち）

政策研究大学院大学教授

1993年、東京大学理学部生物化学科卒業、1995年、同修士課程修了。1998年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、博士（工学）の学位を取得。同年より東京大学先端科学技術研究センター客員助手、翌年より助手となり、2001年より政策研究大学院大学助教授、2007年より准教授。現在、衆議院経済産業調査室客員調査員、日本学術会議特任連携会員、日本知財学会理事、研究・技術計画学会理事なども務めている。近著に『知的財産政策とマネジメント』（編著、白桃書房、2008年）などがある。

**高橋 伸夫**（たかはし・のぶお）

学術博士(筑波大学, 1987) 東京大学大学院経済学研究科教授(経営学)

著書 Design of Adaptive Organizations (Springer-Verlag, 1987)で組織学会賞高宮賞を受賞。

会計検査院の特別研究官(1998-2000)の際の研究を元に『鉄道経営と資金調達』(2000)を出版し、交通図書賞を受賞。またベストセラー『虚妄の成果主義』(2004)の著者でもあり、Human Relations, Behavioral Science, European Journal of Operational Research, Omega などにも論文を発表している。

## 塚越 雅信 (つかごし・まさのぶ)

代表取締役 インクタンク・ジャパン株式会社

1988年、米国ピッツバーグ大学経営大学院修士課程(MBA)を修了後、米国ボストン銀行ボストン本店(現バンク・オブ・アメリカ)に入行。ボストン、ロンドン、東京、シンガポールで投資銀行業務、新興市場資金運用・リスクマネジメント業務を経て、1998年、新興市場部長としてウェストドイチェ・ランディスバング東京支店に転職。2001年から米国シードステージベンチャーキャピタル、インクタンク・ベンチャーズで米国MITを中心とした技術系スタートアップへの投資を開始。同年に同社日本法人インクタンク・ジャパン株式会社を設立。東京大学先端科学技術研究センター知識創造マネジメント専門職育成ユニット特任講師、京都大学と名古屋大学の非常勤講師、特許庁「地域中小企業知財戦略支援事業」統括委員、特許庁「地域における知財戦略支援人材育成事業」全体委員会委員・東北地域事業運営委員長などを歴任。現在、特許庁「地域中小企業知財経営基盤定着支援事業」全体委員会委員・東北事業運営委員長を務める。

## Philippe DEBROUX (ドゥブルー・フィリップ)

創価大学教授、フランス外務省-CNRS 国立在外共同研究所、UMIFRE 19 招聘研究員  
学歴

- ブリュセル自由大学経済学部 - MBA INSEAD - ブリュセル自由大学経営学博士
- 創価大学経営学部教授. 国際経営論と国際人的資源論担当
- 中央大学経済学部大学院客員教授
- レヌ大学経済学部客員教授 - ハノイ経済大学 MBA Program 客員教授

最近の研究業績 (書籍にかぎって)

単著

- Human Resource Management in Japan: A Time of Uncertainties, Ashgate Publisher, 2003
- Female Entrepreneurship in Asia, Chandos Publishers, 2009 (12月)

共著

- Innovation in Japan, Keith Jackson 共著, Routledge, 2009
- Asia's Turning Point, John Wiley and Sons, Ivan Tselichtchev 共著, 2009

最近の研究活動

- アジアでの女性起業家
- 日本での人的資源と entrepreneurship

## 徳丸 宜穂 (とくまる・のりお)

名古屋商科大学経済学部准教授。

京都大学大学院経済学研究科博士課程修了、博士(経済学)。専門はイノベーション論、目下の研究テーマは、1)IT 関連開発の組織管理と技術人材管理の国際比較、2)インド・中国のソフトウェア産業の高度化と能力形成に関する実証研究。論文に"The organizational evolution of innovative activity in the US semiconductor industry: technological specialization and diversification" (Economics of Innovation and New Technology, Vol.15, No.6, 2006), "Technology accumulation in East Asia: A statistical analysis of the 'uneven' accumulation of technological competence" (Economies et Societes <Serie W> No.11, 2009)など。

**中野 剛治** (なかの・こうじ)

東洋大学経営学部専任講師 / 東京大学知的資産経営総括寄付講座特任講師

2002年東京大学経済学部卒業 2004年東京大学大学院経済学研究科修士課程修了

2007年東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学後、東洋大学に着任。主著として『ライセンシング戦略』(共編著)有斐閣がある。

**中村 圭介** (なかむら・けいすけ)

東京大学社会科学研究所教授

学歴： 1985年3月 東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程単位取得退学

1998年10月28日 経済学博士取得(東京大学)

職歴： 1976年4月-77年3月 野村証券投資信託委託(株)

1985年4月-90年3月 雇用促進事業団雇用職業総合研究所研究員

1990年4月-96年3月 武蔵大学経済学部助教授

1996年4月-98年3月 東京大学社会科学研究所助教授

1998年4月 東京大学社会科学研究所教授

専門： 人事管理論, 労使関係論

主要著書：①『壁を壊す』、教育文化協会、2009年

②『実践！自治体の人事評価：「評価される側」からのアプローチ』、ぎょうせい、2007年

③『成果主義の真実』、東洋経済新報社、2006年

④『ホワイトカラーの仕事と成果：人事管理のフロンティア』(石田光男と共編著)、東洋経済新報社、2005年

⑤『衰退か再生か：労働組合活性化への道』(連合総研と共編著)、劉草書房、2005年

**永野 博** (ながの・ひろし)

政策研究大学院大学教授

○1971年に慶應義塾大学工学部、1973年に同大学法学部を卒業、2001年に鹿島建設(株)エンジニアリング本部次長、2002年に文部科学省国際統括官、2004年に科学技術政策研究所長、2005年に(独)科学技術振興機構(JST)理事。2007年に現職。現在、JST研究開発戦略センター上席フェロー、国際核融合エネルギー機構(ITER)財務監査委員会委員長などを兼務。

**西山 英作** (にしやま えいさく)

東北経済連合会産業経済グループ部長

東経連事業化センター副センター長

経歴

- 1992年5月 サンフランシスコ大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 1992年9月 東北経済連合会入局
- 2004年3月 東北大学大学院経済学研究科経営学博士課程修了(経営学博士号)
- 2005年4月 東北経済連合会産業経済担当副部長
- 2006年4月 東経連事業化センター副センター長(現職)
- 2006年4月 JST産学官連携ジャーナル編集委員会委員(現職)
- 2006年9月 東北学院大学経済学部非常勤講師(現職)
- 2009年4月 東北経済連合会産業経済グループ部長(現職)

**Pierre-Jean BAILLOT** (バイヨ・ピエール＝ジャン)

ERA I、ローヌ・アルプ地方

グルノーブル政治学院(フランス)、オックスフォード・ブルックス大学ポリテクニク・インスティテュート(英国)およびブルージュ・ヨーロッパ大学院大学(ベルギー)を修了。フランス貿易銀行(BFCE)でビジネス・プロジェクト・マネージャーを、またCIC BRA銀行で国際部マネージャーを務めた後、ローヌ・アルプ地方エライ(ERA I)において国際融資部門マネージャー(1999～2004年)、中小企業国際進出部門マネージャー(2004～2008年)を歴任。2008年からはパートナーシップおよびクラスター部門のマネージャーを務めている。

**長谷川 史彦** (はせがわ・ふみひこ)

東北大学教授、未来科学技術共同研究センター(NICHE)副センター長

専門分野：材料工学 工学博士

- 1979年 東北大学工学部卒業
- 1981年 東北大学大学院工学研究科博士前期過程終了
- 1981年 東北大学助手
- 1985年 新日本製鉄(株)入社
- 2001年 東北大学助教授
- 2005年 東北大学教授

## **Pascal FERRAND** (フェラン・パスカル)

### FLUOREM

フランス国立科学研究センター(CNRS)研究ディレクター。流体力学・音響力学研究所(LMFA)所属。専門はデジタル手法による物理学的な流れの再現。設計、最適化および流体のカップリング現象を応用分野とする。フラッター現象と呼ばれるこの現象は、構造破壊を引き起こし、航空機事故の原因ともなる。パスカル・フェランは1999年に同僚のステファン・オベールとともに革新的なアプローチに基づくソフトウェアを開発し、Turb'Opty と命名されたこのソフトウェアを商品化するため2000年にFluorem社を設立した。現在、同社の社長はステファン・オベールが務めている。フェランはターボ機械グループの責任者の地位を退くが、LMFAで研究を続け、Fluorem社との橋渡しをしている。また、エアバス、スネクマ、ターボメカ、アレヴァ、エア・リキード、ボルボ、ヴァレオなど流体シミュレーションが戦略的に重要な企業グループと仕事をしている。スウェーデン、アメリカ、日本と密接に協力しながら、フラッター現象に関する論文を発表。「ターボ機械の非定常空気力学、空力音響ならびに空力弾性に関する国際シンポジウム」の議長を過去に務め、また現在も学術委員を務める。

## **Guy FAURE** (フォーール・ギ)

フランス国立科学研究センター(CNRS)研究員、東アジア研究所所長

フランス国立科学研究センター(CNRS)研究員。専門は政治学および経済学で、1982年にフランス国立社会科学高等研究院(EHESS)で社会科学博士号を、リヨン第2大学で政治学の博士課程学生指導資格(HDR)を取得。大阪外国語大学および名古屋大学法学部に留学。2008年からリヨン東アジア研究所所長を務めるとともにリヨン政治学院の現代東アジア部門修士課程の責任者でもある。過去にはバンコクの現代南東アジア研究所所長(2004~2008年)、在日フランス商工会議所専務理事(1986~1992年)、日仏会館研究員(1983~1985年)などを歴任し、東京大学、フランス国立東洋語・東洋文化研究院(INALCO)、リヨン第2大学で教鞭を執った。また、早稲田大学、中央大学、明治大学、ホノルルのイースト・ウェスト・センターに招聘された。代表的な著作に *Géopolitique de l'Asie* (2002年)、*Japon Vietnam, histoire d'une relation sous influences* (2004年)、*La présence économique européenne en Asie du Sud-Est* (2008年) などがある。

## **福嶋 路** (ふくしま・みち)

東北大学准教授

1992年東北大学経済学部卒業、同年、一橋大学大学院商学研究科会計学および経営学専攻修士課程入学、97年博士課程修了後退学。97年より東北大学大学院経済学研究科助教授。2000-2002年、テキサス大学 IC2 & レッドマコー・スクール・オブ・ビジネス 客員研究員。(2007年より東北大学大学院経済学研究科准教授)

専攻 経営戦略、イノベーション、技術移転、クラスター形成、技術の商業化

**福田 隆二**（ふくだ・りゅうじ）

GCOEプログラム、東京大学ものづくり経営研究センター特任研究員

1970年 明治大学法学部法律学科卒。企業研修・セミナー、情報出版社を経て 1976年独立。2007年よりフリー。

2004～2008年 21世紀COEプログラム 東京大学ものづくり経営研究センター特任研究員を勤めるそして2008年以降グローバルCOEプログラム 東京大学ものづくり経営研究センター特任研究員に就任。

**藤本 隆宏**（ふじもと・たかひろ）

東京大学大学院経済学研究科教授

ものづくり経営研究センター センター長

1979年東京大学経済学部卒業、株式会社三菱総合研究所入社。84年ハーバード大学ビジネススクール博士課程入学。89年博士号取得、同大学研究員。90年より東京大学経済学部助教授。1996年リヨン大学客員教授、INSEAD 客員研究員、1996-7年ハーバード大学ビジネススクール客員教授、1997年より同大学上級研究員、1998年より東京大学大学院経済学研究科教授。2004年より、ものづくり経営研究センター、センター長。

専攻：技術・オペレーション管理、経営管理

**細谷 祐二**（ほそや・ゆうじ）

1981年 通商産業省入省(現経済産業省)。1991年 資源エネルギー庁長官官房企画調査課課長補佐、1995年 通商政策局通商調査室長、1997年 通商産業研究所研究主幹、1998年 通商産業研究所研究部長、1999年 近畿通商産業局産業企画部長、2001年 近畿経済産業局産業企画部長、2001年 総務省行政評価局評価監視官(規制改革担当)、2002年 経済産業省近畿経済産業局総務企画部長。

2004年 (独) 経済産業研究所研究調整ディレクター、2006年 経済産業省貿易経済協力局貿易管理課長、2007年 (独) 中小企業基盤整備機構理事、2008年より現職。

信州大学経済学部助教授(1992～1995)、学習院大学経済学部非常勤講師(2006～)、東京大学経済学部卒業、エール大学にて国際経済学と開発経済学を専攻し修士(MA)を取得。現在、(財)日本立地センター特別客員研究員、(独)経済産業研究所コンサルティングフェローを兼務。

**前田 昇**（まえだ・のぼる）

青山学院大学大学院国際マネジメント研究科(MBA)教授。

高崎経大卒、慶應義塾大学(修士)、高知工科大学(学術博士)。IBM 日本及び世界本社製品計画、ソニー本社 MK 戦略本部長、米・欧ソニー企画担当 VP、文科省 NISTEP 客員研究官、内閣府総合科学技術会議専門委員、高知工科大学教授、大阪市立大学教授、名大、京大非常勤講師等歴任。単著「スピンオフ革命」、共著「日本の産業クラスター戦略」「MOT ベンチャーと技術経営」「Making IT」等

### **Joseph A. MARTIAL** (マルシヤル・ジョゼフ)

リエージュ大学教授、分子生物学・遺伝子工学研究所所長

リエージュ大学教授。専門は分子生物学、遺伝子工学。リエージュ大学内の GIGA (Groupe Interdisciplinaire de Géno-protéomique Appliqué) の創設者の 1 人であり、現在はその運営審議委員会委員長を務める。GIGA は 550 名の研究員が所属する卓越した研究拠点を形成し、8 つのテクノロジー・プラットフォーム、生物工学分野の生涯教育センター、技術移転室、インキュベーターと連携したバイオベンチャー進出のためのスペースを擁する「オミクス」テクノロジーのためのセンターである。ジョセフ・マルシアルは Eurogentec 社 (リエージュ大学から生まれたベンチャー企業の第一世代であり、現在は 400 名ほどの従業員を抱える) および Diagenode 社 (最も若く、従業員は 35 名ほど) の取締役でもあり、Probiox 社ほか複数のベンチャー企業の役員を務めている。

### **Jacques MALEVAL** (マルヴァル・ジャック)

在日フランス大使館産業技術・イノベーション特別任務官

ジャック・マルヴァルは 2009 年 10 月 1 日、在日フランス大使館科学技術参事官付産業技術イノベーション特別任務官に就任。

日本事務所代表であった 5 年強を含む約 8 年間、外国企業によるフランス直接投資を促進する「対仏投資庁」に勤務し、国土経済発展の分野における豊かな経験をもつ。

その後、企業や地方公共団体を顧客とするコンサルタント会社 (本部パリ) の東京代表を 2 年間務める。

過去に「国防省 装備庁」「会計検査院」にも在籍し、日仏両国での勤務経験がある。

### **元橋 一之** (もとはし・かずゆき)

東京大学教授、RIETI 研究員

経済産業省、OECD 勤務を経て、2002 年から一橋大学助教授などを経て現職(東京大学工学系研究科技術経営戦略学専攻教授)。経済産業研究所ファカルティフェロー。東京大学工学系修士、コーネル大学 MBA、慶応大学博士 (商学)。専門は、計量経済学、産業組織論、技術経営論。主な著書に『IT イノベーションの実証分析』(東洋経済新報社)、『日本経済競争力の構想』(日本経済新聞社) などがある。

### **Jean-Michel MOLLIER** (モリエ・ジャンミッシェル)

エライ・ジャパン駐日代表、ローヌ・アルプ地方

エライ・ジャパン駐日代表。エライ・ジャパンはローヌ・アルプ地方の日本における常駐事務所で、数年にわたりリヨン本部で日本を担当していたジャン＝ミッシェル・モリエが 1993 年に開設した。

エライ・ジャパンの使命はローヌ・アルプ地方から日本への輸出および日本からローヌ・アルプ地方への投資の促進、クラスター間のパートナーシップの推進、さらには国際協力である。フランス国立東洋語・東洋文化研究院(INALCO)で日本語を学び、フランス語教師として日本で 5 年を過ごした。その後、グルノーブル政治学院で経済学および財政学を修め、エクス・アン・プロヴェンス大学で博士号を取得。

### **Marc LEGAL** (ルガル・マルク)

## リヨン大学技術移転室長

2006年に設立され、現在は総合的な学術教育機構としてのリヨン大学所属の技術移転室 (Lyon Science Transfert)の室長として、特許申請、プロトタイプやデモンストレーターの作成、パートナーシップを結んだ組織の発明の商品化などに携わる。以前はフランス国立リヨン応用化学院(INSA de Lyon)において技術移転の責任者を務めていた。物質科学の修士号の後、1991年にパリ国立工芸院(ENSAM)で新物質開発の博士課程準備資格(DEA)を取得。パリ政治学院で経済学および財政学も修める(1994年)。実業界およびコンサルティング業界で10年ほどキャリアを積み、フランスガス公社、次いでスイス・スウェーデンの合弁企業ABBグループの研究開発部とのあいだで専門性の高い実務につく。また、コンサルティング会社で官民連携の研究開発プログラム(欧州連合の研究・技術枠組み計画"FP6")にも携わった。

## Yveline LECLER (レクレル・イブリン)

UMIFRE 19、日仏会館、リヨン大学、政治学院、東アジア研究所

レクレル イブリンは現在日仏会館研究センターの政治経済の研究員で、東京大学社会科学研究所や政策研究大学院大学の客員研究員です。フランスではリヨン大学の政治学院と東アジア研究所の教授です。社会科学の博士(パリ大学 EHESS)は1980年に終了し、日本語科修士も卒業しました(INALCO、パリ1975)。GERPISA やアジア国際ネットワークのメンバーです。日本経済の専門家で、中小企業・下請けならびに企業集積と日本産業政策を長く勉強しました。今は、特に中小企業や地域活性化に関してのイノベーション政策を勉強します。数多くの本やジャーナルでの論文を出版して、最近 Asian Industrial Clusters, Global Competitiveness and New Policy Initiatives, Singapore: World Scientific.2009, Ganne Bernard と共同で編集しました。

## Christian LEBAS (ルバ・クリスティアン)

リヨン第2大学教授、LEFI

経済学教授。リヨン第2大学の企業経済研究所(LEFI)所属。経済および特許マネジメント修士課程の責任者を務める。専門は発明とイノベーションの経済学。最近では、特許の新たな役割に関する研究や、5ヶ国(アメリカ、イギリス、日本、フランス、ドイツ)における多作な発明家の特徴と移動性についての研究を進めている。近年の著作・論文に、*The Economics of Persistent Innovation: an Evolutionary View* (W. Latham との共同編集、Springer, 2006年)、*Inventors and invention processes in Europe : Results from the PatVal-EU survey* (P. Giuri 他との共作, Research Policy, Vol., 36(8), 2007, pp. 1107-1127)、*Economie et Management du brevet. Le système de brevet dans l'économie contemporaine* (Economica, 2007)、*Collective Knowledge, Prolific Inventors and the Value of Inventions : An Empirical Study of French, German and British Owned U.S. Patents, 1975-1998* (C. Gay, W. Latham との共作, The Economics of Innovation and New Technology, vol.,17 Jan-March, 2008, pp.5-22)がある。

善本 哲夫 (よしもと・てつお)

現職

- ・立命館大学経営学部 准教授
- ・東京大学ものづくり経営研究センター 特任研究員

略歴

2004年 同志社大学大学院 商学研究科博士後期課程 退学

2004-2005年 東京大学ものづくり経営研究センター 特任助手

2005-2007年 同志社大学商学部 講師

2007-現在 立命館大学経営学部 准教授

2005-現在 東京大学ものづくり経営研究センター 特任研究員

渡部 俊也 (わたなべ・としや)

東京大学教授、R C A S T

1994年東京工業大学博士号取得。1985年から2001年にはTOTO Ltd.で研究者と責任者を務めて2001年に東京大学から教授として招かれる。現在は東京大学の先端科学技術研究センター(R C A S T)と大学院工学系研究科の教授を勤める。他には総合科学技術会議(C S T P)、知的財産戦略や数多くの文部科学省、経済産業省、内閣府関連の委員として活躍した。また日本知財学会の一創立者で理事として活動を行っている。本7冊と100以上の記事の作者でもあって最近は"Strategic diversity in Japanese university Technology Licensing Offices", with D. Senoo, M. Fukushima, S. Yoneyama, in Int. J. Knowledge Management Studies, Vol.3, Nos.1/2 (2009) を出版した。世界中にわたるさまざまな国際会議に招待され数多くの賞を取っている。